

数 学

(7) 数学

観 点	着 眼 点
1 学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫	(1) 数学的な見方・考え方を働かせながら、日常の事象や社会の事象を数理的に捉え、数学の問題を見だし、問題を自主的、協働的に解決する学習など、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた工夫 (2) 学習課題に対して、数学的な表現を用いて簡潔・明瞭・的確に表現したり、互いに自分の考えを表現し伝え合ったりする学習活動など、言語能力の育成を図るための工夫 (3) 情報活用能力の育成に向け、必要に応じそろばんや電卓、コンピュータ、情報通信ネットワークなどを活用して、学習の効果を高めるための工夫 (4) 数学を活用して問題解決する方法を理解するとともに、自ら問題を見だし、解決するための構想を立て、実践し、その過程や結果を評価・改善するための工夫 (5) 具体物を操作して考えたり、データを収集して整理したりするなどの具体的な体験を伴う学習を充実するための工夫 (6) 数学的活動を楽しめるようにするとともに、数学を学習することの意義や数学の必要性などを実感する機会を設けて、生徒の自主的、自発的な学習を促すための工夫 (7) 他の教科や小学校等との関連を図った学習活動を充実するための工夫
2 使用上の便宜	(1) 内容別配当の分量 (2) 教材・資料等の分量 (3) 造本上の特徴、特別な配慮を必要とする生徒への配慮、編集上の工夫等

1 学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫

発行者の 番号・略称	学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫	
2 東書	<p>●着眼点(1)について</p> <p>・単元の学習を通して身につけたい「資質・能力」が生徒に伝わるよう、タイトルと文章で表現するよう工夫されている。</p> <p>〔例〕 2年 (P9、P35 等)</p> <p>・「深い学びのページ」で「問題をつかむ→見通しをたてる→問題を解決する→振り返る→深める」の過程を示し、課題解決の進め方を意識して取り組めるよう工夫されている。</p> <p>〔例〕 2年 (P25～26、P83～84 等)</p> <p>●着眼点(2)について</p> <p>「深い学びのページ」等で自分の考えを説明したり、他者と伝え合ったりする活動を充実させ、言語によるコミュニケーション能力が高まるよう工夫されている。</p> <p>〔例〕 2年 (P108、P152 等)</p> <p>●着眼点(3)について</p> <p>「Dマーク」のついた箇所では、インターネット上のデジタルコンテンツを使って効果的な学習が行えるよう工夫されている。</p> <p>〔例〕 2年 (P88、P90 等)</p>	<p>●着眼点(4)について</p> <p>「学びをふり返ろう」で、大切な考え方等について、話し合ったり自分の言葉でまとめたりして、数学のよさを実感でき、次の学びに向かう意欲が高まるよう工夫されている。</p> <p>〔例〕 2年 (P45、P87 等)</p> <p>●着眼点(5)について</p> <p>「データの活用」の単元では実社会のデータを活用して、統計的に問題解決する方法を学び、データの傾向を読み取り批判的に考察し判断力を養えるよう工夫されている。</p> <p>〔例〕 2年 (P186～187 等)</p> <p>●着眼点(6)について</p> <p>各章導入の課題や「学びをひろげよう」等で日常生活や社会の問題を解決したり、数学の新しい性質を発見したりして、数学的活動の楽しさや数学のよさが実感できるよう工夫されている。</p> <p>〔例〕 2年 (P90～91、P186～187 等)</p> <p>●着眼点(7)について</p> <p>・「防災・安全」「環境」「多様性の尊重」「伝統・文化の尊重」に関わる題材などに「他教科」マークをつけ、他教科との関連づけをしやすいよう工夫されている。</p> <p>〔例〕 2年 (P56、P150 等)</p> <p>・第1学年の教科書では、もくじで「算数で学んだこと」を示したり、0章で「算数から数学へ」の特集ページを示したりするなど、算数からスムーズに数学に移行できるよう工夫されている。</p> <p>〔例〕 1年 (P1、P9～13)</p>

発行者の 番号・略称	学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫	
4 大日本	<p>●着眼点(1)について</p> <p>・各単元の初めに、導入の活動を設けて、その活動から見いだした課題を次ページ以降の学習につながるように設定することで、生徒の関心が高まるように工夫されている。</p> <p>〔例〕 2年 (P40～41、P66～67 等)</p> <p>・各章の応用の課題となる「利用」で、思考の段階に対応させて問題発見、問題解決の流れを示し、解決の過程を振り返ったり、新たな問題を発見したりすることを通して、深い学びが実現されるよう工夫されている。</p> <p>〔例〕 2年 (P89～90、P114 等)</p> <p>●着眼点(2)について</p> <p>番号の左上に示した、「活動」の課題では、これまでの学習を生かして予想したり、調べたりして新たな概念等の発見につなげている。また、考えを比べたり、話し合ったりする場面を取り入れ、対話的な学習となるよう工夫されている。</p> <p>〔例〕 2年 (P18、P106 等)</p> <p>●着眼点(3)について</p> <p>「WEB」マークをつけた課題では、シミュレーション、動画、資料等のコンテンツを見ることができ、効果的に学習できるよう工夫されている。</p> <p>〔例〕 2年 (P91、P102 等)</p>	<p>●着眼点(4)について</p> <p>巻末の「課外学習」では、学習内容を生かして考える課題の例を示し、生徒の身の回りや疑問に思ったこと等を課題に選び取り組めるよう工夫されている。</p> <p>〔例〕 1年 (P266～269)、2年 (P202～205) 等</p> <p>●着眼点(5)について</p> <p>「データの活用」の単元では、実際のデータを用いたり、実社会でデータの活用が役立つことを紹介し、知識等が必要であることが実感できるよう工夫されている。</p> <p>〔例〕 2年 (P168～169、P176～177 等)</p> <p>●着眼点(6)について</p> <p>学習の区切りで、学んだことをふり返ることを促す質問や、章末の最後の課題では、その章で学んだことのよさに気づかせるような課題を設けて、数学のよさを実感できるよう工夫されている。</p> <p>〔例〕 2年 (P61、P178 等)</p> <p>●着眼点(7)について</p> <p>・他の教科との関連性がある課題では、右上に教科名を書くことで、他教科と関連づけしやすいよう工夫されている。</p> <p>〔例〕 2年 (P60、P63 等)</p> <p>・第1学年の教科書では、もくじで「算数で学んだこと」を示して、算数からスムーズに数学に移行できるよう工夫されている。</p> <p>〔例〕 1年 (P2～3)</p>

発行者の 番号・略称	学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫	
1 1 学図	<p>●着眼点(1)について</p> <ul style="list-style-type: none"> 単元の導入で、身近な題材を扱い、自然に出される疑問を発見し、それについて考えてみたいということを「次の課題へ」と提示し、意欲を引き出すよう工夫されている。 〔例〕 2年 (P70～71、P108～109 等) <p>●着眼点(2)について</p> <ul style="list-style-type: none"> 「数学的活動」のページでは、課題発見から課題解決までを、話し合いをベースに考え、さらに新たな課題を発見する過程を示し、対話的な学びが実現できるよう工夫されている。 〔例〕 2年 (P95～96、P188～189 等) <p>●着眼点(3)について</p> <ul style="list-style-type: none"> 「プログラミングを体験してみよう」のページを裏見返しに設定し、論理的思考の大切さや ICT 活用の重要性に気づける工夫や、「二次元コード」を教科書に示し、インターネット上のデジタルコンテンツを利用できるよう工夫されている。 〔例〕 2年 (P76、P169、裏見返し等) 	<p>●着眼点(4)について</p> <ul style="list-style-type: none"> 「数学的活動」のページでは考察の後に「新たな問題を見つけよう」等として次の課題へつながっていくよう工夫されている。 〔例〕 2年 (P45～46、P206～207 等) <p>●着眼点(5)について</p> <ul style="list-style-type: none"> 「データの分布」においては、生活に関わるデータを取り上げて、データの取り扱い方を理解するとともに、コンピュータを用いて能率的に処理できるよう工夫されている。 〔例〕 2年 (P198～199、P210～212 等) <p>●着眼点(6)について</p> <ul style="list-style-type: none"> 「役立つ数学」においては、社会で数学が役立っていることをコラムで紹介し、学習に対する意欲を高めるよう工夫されている。 〔例〕 2年 (P144、P196 等) <p>●着眼点(7)について</p> <ul style="list-style-type: none"> 巻頭で数学を実際の仕事に役立てている人のコラムを掲載してキャリア教育につなげたり、巻末の「今の自分を知ろう」で持続可能な開発目標 (SDGs) にふれることで国際的な課題に取り組むことができるようにする等、身のまわりと関連づけるよう工夫されている。 〔例〕 2年 (巻頭特集、P216～217) 等 第1学年の教科書では目次で「小学校で学んだこと」を示したり、「ふりかえり～算数から数学へ～」のページで算数で既習内容を提示するなど、算数からスムーズに数学に移行できるよう工夫されている。 〔例〕 1年 (P2～3、P10～11 等)

発行者の 番号・略称	学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫	
17 教出	<p>●着眼点（1）について</p> <p>・学習の過程で生じる生徒の疑問を取り上げ、学習を進める中でそれを解決したり、また新たな問いを見いだしていくことで主体的な学びとなるよう工夫されている。</p> <p>〔例〕 2年（P25、P47等）</p> <p>・「学習のプロセス」のページでは「自分の考えをもとう」等のラベルをつけ、自分の考えを説明したりする活動等を通して、「主体的・対話的で深い学び」となるよう工夫されている。</p> <p>〔例〕 2年（P95～96、P194～195等）</p> <p>●着眼点（2）について</p> <p>自分の考えを説明したり他者の考えを聞いたりする場面を多く設けて、数学的な表現力を育成するとともに他者とのコミュニケーションを通して、自分の考えを深められるよう工夫されている。</p> <p>〔例〕 2年（P95、P118等）</p> <p>●着眼点（3）について</p> <p>「まなびリンク」マークをつけたところでは、デジタルコンテンツを活用して、効果的に学習ができるよう工夫されている。</p> <p>〔例〕 2年（P93、P117等）</p>	<p>●着眼点（4）について</p> <p>今までに学習したことを利用して課題に取り組む場面や、学習の感想を書かせる場面を設けて、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとする態度を養えるよう工夫されている。</p> <p>〔例〕 2年（P90、P97等）</p> <p>●着眼点（5）について</p> <p>「データの活用」の単元では身の回りのことを実際に調べて活用したり、他の人の発表を批判的に考察したりする活動を設定し、実社会に生かせるよう工夫されている。</p> <p>〔例〕 2年（P208、P214～215等）</p> <p>●着眼点（6）について</p> <p>数学を生活や社会に利用する場面を数多く掲載し、それらの教材を扱うことで、数学の実用性を知り、数学の楽しさやよさを実感できるよう工夫されている。</p> <p>〔例〕 2年（P142～143、P238～239等）</p> <p>●着眼点（7）について</p> <p>・巻末の「さくいん」において用語の英訳を掲載したり、食塩水の濃度を求める課題等、他教科と関連する教材を豊富に扱う等、数学との関連を感じられるよう工夫されている。</p> <p>〔例〕 2年（P240、P267等）</p> <p>・第1学年の教科書では、もくじで「算数で学んだこと」を示したり、各章の導入の前に算数の問題を示したりするなど、算数からスムーズに数学に移行できるよう工夫されている。</p> <p>〔例〕 1年（P2～3、P12）等</p>

発行者の 番号・略称	学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫	
61 啓林館	<p>●着眼点（1）について</p> <p>・各章（節）の導入で、身のまわりの数学的活動を取りあげた「学習のとびら（節のとびら）」を設けて活動することで、新しい学習に入る際に、興味・関心をもって主体的に数学を見だし、発展させられるよう工夫されている。</p> <p>〔例〕 2年（P10～12、P23等）</p> <p>・身の回りの場面から課題設定し、既習内容を応用して解決する内容を章の最終節や項に多数設定されている。また、最初の課題では、今後の問題解決の参考にできるよう3段階に分けて展開する工夫がされている。</p> <p>〔例〕 2年（P48～49、P58～59等）</p> <p>●着眼点（2）について</p> <p>表現力の育成として3つのコーナー「説明しよう」、「話しあおう」、「まとめよう」を設け、多様な考えにふれたり、根拠を明らかにし筋道を立てて説明する力を身につけることができるよう工夫されている。〔例〕 2年（P76、P180等）</p> <p>●着眼点（3）について</p> <p>教科書内に二次元コードを掲載し、学習の助けになる教材を参照できるようにして、生徒の主体的な学習の補助や、教師の指導の補助になるよう工夫されている。</p> <p>〔例〕 2年（P33、P89等）</p>	<p>●着眼点（4）について</p> <p>「学びをたしかめよう」で、その単元で学習したことを確認できる問題を扱い、問題の右側に確認しておきたい学習内容を示し、理解が不十分な生徒が復習できるようにすることで、自らの学びを改善できるよう工夫されている。</p> <p>〔例〕 2年（P54～55、P90～91等）</p> <p>●着眼点（5）について</p> <p>「データの活用」の領域では、実際のデータを用いて考察させている。また、有用性だけでなく限界にも触れて、多面的に吟味してよりよい解決をめざせるよう工夫されている。</p> <p>〔例〕 2年（P174～177、P178等）</p> <p>●着眼点（6）について</p> <p>「学びをいかそう」では、日常生活と数学との関わりを考えることができる題材や、学習した内容を深めることができる題材等を扱い、数学を利用する活動のよさを感じられるよう工夫されている。〔例〕 1年（自分から学ぼう編 P27～56）、2年（自分から学ぼう編 P21～44等）</p> <p>●着眼点（7）について</p> <p>・カリキュラム・マネジメントに配慮し、他の教科で学習する内容を数学を使って考える題材を設けて、探究的な学習のテーマとして参考にできるよう工夫されている。</p> <p>〔例〕 2年（P62、P72等）</p> <p>・第1学年の教科書の自分から学ぼう編「算数をふりかえろう」で、算数で学習したことを例示することで、算数からスムーズに数学に移行できるよう工夫されている。</p> <p>〔例〕 1年自分から学ぼう編（P7～12）</p>

発行者の 番号・略称	学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫	
104 数研	<p>●着眼点（1）について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各項目の学びの主たる目標を「旗印」マークで具体的に示し、学習の見通しがもてるようにしたり、後見返しのチェックシートで何ができるようになったかを自己評価させて主体的に学べるよう工夫されている。〔例〕2年（P50、P71等） ・生徒たちが数学的な見方・考え方を働かせながら解決に向かう姿を対話形式で掲載し、紙面上で授業の流れを見てとれるよう工夫されている。〔例〕2年（P88、P109等） <p>●着眼点（2）について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事実・方法・理由などを説明する問いや、自己の考えを他者に伝える機会を増やす等、言語活動を充実させるよう工夫されている。〔例〕2年（P116、P182等） <p>●着眼点（3）について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「補充」、「資料」、「イメージ」、「考察」の4種類のLinkアイコンで示された課題は、インターネットを介して教科書とデジタルコンテンツがリンクし、生徒や学校環境に応じた対応ができるよう工夫されている。〔例〕2年（P98、P141等） 	<p>●着眼点（4）について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「TRY」では学んだ内容を活用して解決する課題を設定し、数学の有用性を感じられたり、生徒が多様な考え方を出し合いながら、解決をめざすことができるよう工夫されている。〔例〕2年（P112、P153等） <p>●着眼点（5）について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「説明しよう」「調べよう」等、活動的な内容を各所に設けたり、「データの活用」では身近な内容を取り上げて活動し、数学の有用性を感じられるよう工夫されている。〔例〕2年（P18、P172等） <p>●着眼点（6）について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習内容を深め、学びを発展させるための素材を掲載した「別冊」では、生徒の学習状況に合わせて、時期や分量を自由に決めて取り扱うことができるよう工夫されている。〔例〕2年（別冊P10、別冊P14等） <p>●着眼点（7）について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食塩水の問題を取り上げ、理科との関連が理解できるようにしたり、福祉・資源・地球環境等社会問題について、数学を学びながら自然な形でふれられるよう工夫されている。〔例〕2年（P202、P213等） ・各章の導入の前に「ふりかえり」のページを設定して、小学校の既習内容等を示すことで、算数からスムーズに数学に移行できるよう工夫されている。〔例〕1年（P14、P62）等

発行者の 番号・略称	学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫	
116 日文	<p>●着眼点（１）について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巻頭で「問題発見・解決、学び方のポイント」を示し、それを学習内容の中で例示することで、学習の見通しを立て主体的に学ぶことができるよう工夫されている。 〔例〕全学年（P4～5） ・各小節の横に、その場面で必要な数学的な見方・考え方「大切な見方・考え方」を具体的に示し、数学的な見方・考え方を働かせながら数学的活動に取り組めるよう工夫されている。 〔例〕２年（P41、P45等） <p>●着眼点（２）について</p> <ul style="list-style-type: none"> 各小節で、「話し合おう」や「説明できるかな？」を適宜設けて言語活動の充実を図ることで、数学的な思考力、判断力、表現力等を養うことができるよう工夫されている。 〔例〕２年（P40、P110等） <p>●着眼点（３）について</p> <ul style="list-style-type: none"> 「WEB マーク」をつけた箇所に関連したコンテンツを動画等で見ることができることや、「プログラムと数学」を設けて論理的思考力を身につけることができるよう工夫されている。 〔例〕２年（P110、P204～205等） 	<p>●着眼点（４）について</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習したことをほかの場面で活用したり、課題の条件の一部を変えて新しい課題をつくって取り組んだりする活動が適宜設けられている。 〔例〕２年（P90～91、P107等） <p>●着眼点（５）について</p> <ul style="list-style-type: none"> 「データの活用」では実在する資料やデータを使った教材を取り上げることで数学を身近に感じるとともに、数学の有用性を実感できるよう工夫されている。 〔例〕２年（P162～163、P194～195等） <p>●着眼点（６）について</p> <ul style="list-style-type: none"> 「身近なことから」では数学の問題を作る過程を課題に取り入れたり、条件を変えて新しい問題をつくって取り組んだりする課題を設定し、数学を活用できるよう工夫されている。 〔例〕２年（P30～31、P192等） <p>●着眼点（７）について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理科との関連で食塩水の濃度を求める課題や、道徳科との関連で課題解決の場面で自らの考えを発表し、他者の多様な考え方を尊重し、話し合いを通してよりよい考え方を作り上げていく等、他教科との連携を図るよう工夫されている。 〔例〕２年（P132～133、P199等） ・第１学年の教科書では、もくじで「算数で学んだこと」を示したり、巻頭で「算数の確かめ」の特集ページを示したりするなど、算数からスムーズに数学に移行できるよう工夫されている。 〔例〕１年（P1、P8～11）等

2 使用上の便宜 ※内容別配当の分量の項目における○囲みの数字は学年を表す。

項目	発行者の 番号・略称	総 ページ	(1)内容別配当の分量								(2)教材・資料等の分量						
			A 数と式	B 図形	C 関数	D データの 活用	まとめの問題	特設・ 選択教材等	目次・ 解答等	巻末 折り込み	身の回りの 数学的活動例の数	発展的な 学習の問題の数	対話的な 活動を示した 例の数	環境・防災・ 人権等社会 問題に関する 教材の数	二次元 コードに 関するもの の数	文献・ 読み物 資料の数	三重県 に関する 記述等
			・正の数と負の数① ・文字を用いた式① ・一元一次方程式① ・文字を用いた式② ・連立二元一次方程式② ・正の数の平方根③ ・簡単な多項式③ ・二次方程式③	・平面図形① ・空間図形① ・基本的な平面図形の性質② ・図形の合同② ・図形の相似③ ・円周角と中心角の関係③ ・三平方の定理③	・比例、反比例① ・一次関数② ・関数 $y=ax^2$ ③	・データの分布① ・不確定な事象の起こりやすさ① ・データの分布② ・不確定な事象の起こりやすさ② ・標本調査③											
2 東書	1年	312	110	68	40	24	15	16	28	11	56	3	15	8	25	12	—
	2年	250	48	64	38	34	13	16	28	9	35	3	17	3	16	6	—
	3年	284	84	82	34	14	15	16	28	11	40	6	13	4	11	9	○
4 大日本	1年	321	111	74	40	26	12	23	25	10	84	4	13	9	18	24	○
	2年	248	54	70	32	31	10	18	25	8	52	9	12	4	11	18	—
	3年	300	90	82	34	18	16	26	27	7	44	10	14	9	20	26	—
1 1 学図	1年	312	117	66	38	30	8	21	22	10	57	10	23	8	11	29	—
	2年	267	59	70	38	36	8	28	19	9	59	7	28	5	8	21	—
	3年	307	89	91	37	18	16	23	24	9	44	11	15	6	16	23	○
1 7 教出	1年	324	118	72	36	27	16	20	25	10	63	4	13	5	12	12	—
	2年	276	54	80	34	39	14	25	24	6	48	4	14	4	7	9	○
	3年	303	90	86	32	17	18	27	24	9	27	12	9	4	9	14	—
6 1 啓林館	1年	404	110	72	40	32	25	80	43	2	74	2	23	3	39	17	—
	2年	318	54	70	38	30	24	60	40	2	47	2	22	6	32	11	—
	3年	398	86	96	32	18	34	84	46	2	51	7	17	3	41	11	○
1 0 4 数研	1年	311	108	68	34	25	23	20	29	4	60	3	48	9	63	8	○
		50	12	18	6	9	0	0	4	1	7	2	7	0	0	0	—
	2年	254	54	66	36	29	21	16	29	3	33	1	46	5	49	14	—
		50	14	12	13	6	0	0	4	1	7	2	7	0	0	0	—
	3年	311	82	88	32	17	37	22	29	4	43	7	51	3	51	10	—
		58	6	34	6	7	0	0	4	1	8	1	8	0	0	0	—
1 1 6 日文	1年	316	110	60	40	34	10	22	23	17	64	3	13	6	31	11	—
	2年	254	50	66	36	30	20	17	23	12	41	2	11	8	22	8	—
	3年	295	78	76	34	16	16	35	27	13	28	7	12	6	18	11	—

(3) 造本上の特徴、特別な配慮を必要とする生徒への配慮、編集上の工夫等

2 東書	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書の大きさはB5判で、用紙は、裏抜けがしにくく、丈夫で筆記特性の良い白色軽量化用紙を使用し、重量の負担を軽減している。 ・色覚問題の専門家により、すべてのページにわたって配色に関する検証を行い、カラーユニバーサルデザインに対応している。 ・ルビなどの小さい文字にはユニバーサルデザインフォントを採用している。 ・「節の導入」や「深い学びのページ」は右ページ始まりとし、次のページの考えが見えないようにしている。
4 大日本	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書の大きさはB5判で、環境に配慮した紙と植物油インキを使用したり、表紙にフィルムを貼るなど、環境や堅牢性に配慮している。 ・色覚のちがいによって学習に支障が出ることをないようにカラーユニバーサルデザインをふまえた色遣いを工夫している。 ・専門家の監修のもと、レイアウトや文章の改行位置を工夫したり、ユニバーサルデザインフォントを使用したりして、できるだけ読みやすくしている。 ・使用する文字の大きさを1年と2、3年で変え、小学校算数や高等学校数学の教科書とのギャップを少なくしている。
11 学図	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書の大きさはB5判で、表紙は表面にコーティングを施し、汚損しにくくしたり、製本は堅牢にしている。 ・特別支援教育の専門家による指導のもと、ユニバーサルデザインに配慮した紙面づくりをしている。 ・専門家の校閲を得て、写真、イラスト、図版等すべてにおいてカラーバリアフリーとなるよう配慮している。 ・裏見返しにホワイトボードマーカーで書いたり消したりできるページを添付し、個人で考察する際や、グループで考えを出し合う際などに役立てることができるようにしている。
17 教出	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書の大きさはB5判で、印刷には、環境にやさしい再生紙と植物油インキを使用している。 ・色覚等の特性をふまえた判読しやすい配色やレイアウト、表現方法、文字など工夫している。 ・生徒の負担軽減のため、用紙の軽量化を図ったり、目に優しい紙を使用している。 ・側注を設けて補足的な内容を扱ったり、文節で改行したりして、視覚的にも読みやすくわかりやすい紙面に配慮している。
61 啓林館	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書の大きさはB5判で、開きやすく、紙面が広く見える「あじろ綴じ」製本形式を用い、軽くて丈夫な紙を採用している。 ・特別支援教育の専門家の監修のもと、優しい色使いで、シンプルなデザインとし、フォントは識別しやすい書体を採用している。 ・4色刷りを効果的に用いて、見て楽しく、興味と関心をもって学習を進めることができるようにしている。 ・自分から学ぼう編は裏表紙を先頭にして、上開きの紙面構成としていて、図、表、グラフ、文字などを有効に配置し、レイアウトの工夫をしている。
104 数研	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書の大きさはB5判で、製本では堅牢なつくりになるようにしたり、生徒の安全面を考慮して、針金を使わないようにしている。 ・ユニバーサルデザインに基づいてつくられている。文字は全体にわたってユニバーサルデザインフォントを大きめのサイズで用い、本文は文節で改行して、読みやすくなるようにしている。また、色覚の特性によらず識別しやすい配色にしている。 ・重量が生徒の負担にならないように、本冊と別冊に分けたり、印刷には軽くて丈夫な紙を使用している。 ・奇数ページにツメ見出しをつけ、ページの検索性が高まるようにしている。
116 日文	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書の大きさはB5判で、巻末の「対話シート」は、切り離して授業で使った後、ノートに貼って残すことを想定し、一般的なノートよりひとまわり小さいサイズにしている。 ・ユニバーサルデザインフォントの使用、罫線や囲みの使い方、色使い、レイアウトなどを工夫し、判読しやすくしている。 ・小学校で学習しない漢字、学習しない読み方をする漢字には、見開きごとにルビをつけている。 ・読みやすい位置で改行をしたり、図中の文字を大きくしたりして、読みやすい紙面構成にしている。